

大人も学んだ！「山北地区地域活性化懇談会」

山北地区で各種取り組みを進める皆さんが参加し、互いの取り組み状況を共有するとともに連携を深めてもらおうと山北支所が主催し開催。お出でいただいた明治大学農学部教授 小田切 徳美 先生からも、当協議会をはじめ地区内の各取り組みに対して多くの示唆をいただきました。



【参加者から】各団体の取り組み状況等を発表しました。

- ・山北地区まちづくり協議会
- ・日沿道山北地区活性化促進協議会ワーキング部会
- ・山北地区内小中学校 ・山北商工会 ・山北支所

【小田切先生から】参加者の取り組みを踏まえ、アドバイスをいただきました。

全国的に人口減少の現状にあります。各地で「農村回帰」の事象が起り始め、特に島根県の中山間地では、人口増加に転じた地域もあります。その要因には、以下の3つの体系づくりをしっかりと実践していることにあります。

- ・暮らしの物さしづくり→日々の日常的な価値の醸成
- ・暮らしの仕組みづくり→地域の人々が主役となる「舞台づくり」
- ・カネとその循環づくり→複数の業を結び持続可能な産業づくり

最後に先生からは「皆さんの多様な取り組みが、今回のように、これからも連携し続けることが、次につながるものと考えています。」と結んでおられました。



お知らせ

「速報」

温出身、加茂優也さんが童話作家デビュー！！



「きちきちだらり」

ささがわ ながれ
作: 笹川 永礼
(ペンネーム)

2月15日発売予定 詳しくは次号で

編集後記

私は仕事でもプライベートでもたくさん子どもたちと出会います。子どもたちがいるところへ勝手に足が向いてしまうようです。きっと、あの無邪気な笑顔、まっすぐな心、よく疲れないと思うほどのパワー、何気ないことで盛り上がる愉快さなどに触れることが、私のエネルギーになるからでしょう。

このパワーと対等に接することができるように、「冬も体力をつけよう！」という思いと、「あ～布団から出たくないな～」という思いが交錯するこのごろです。

地域づくり団体の活動を支援 平成27年度助成金申請受付中

山北地区内で活動する団体等が地域活性化を目指す取り組みに対し「地域づくり団体活動支援事業」により助成します。申込期限は平成27年2月6日（金）までです。

【事業例】

- ・多くの人が集い、交流できるイベントの開催
- ・地域の課題等を解決するための検討会の開催
- ・地域産物を活かした特産品開発の検討

【支援概要】

対象となる事業に必要な経費について最大で7割（ソフト事業）を補助します。なお、より多くの団体等への支援を行うため、1団体あたり年間20万円を支援の限度とします。

さんぽくまちづくり通信

第 1 1 号

発行 山北地区まちづくり協議会

発行日 平成26年（2014年）12月15日

事務局 村上市 山北支所 地域振興課 自治振興室 (住所) 〒959-3993 新潟県村上市府屋 232
(TEL) 0254-77-3111 (FAX) 0254-77-2217 (E-mail) s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp



笠堅八幡宮祭典



ふるさと山北の夏祭り



日本国太鼓30周年記念イベント
太鼓フェスティバル



山北中学校3年生
「食育で鮭料理を体験」

ふるさとを愛する心は「人のつながり」から

私たちにとっての「ふるさと」とは、自らが「心をよせる」ところのことではないでしょうか。

生まれ育った集落や楽しみだった祭りなどがあり、守り育ててくれた皆さんがいるからこそ「心をよせる」ことができるのではないかと思います。その気持ちは「人と人のつながり」から生まれるもので、冒頭でも記載しましたが、祭りなどの「伝統行事」であったり、何気ない日常の暮らしの中から生まれるものだと思います。

それは、「あの人がいるから」や「あの人のた

めに、「あの人と一緒に」などの人と人との“つながり”からです。

今、山北の小・中学校や地域では、山北の未来を担う子どもたちに「地域の人とのふれあい」を通して、山北の魅力を学び、体感する取り組みを盛んに行っています。

より多くの子どもたちが「ふるさと山北を愛し」、山北を離れても「帰りたい」と思える「人のつながり」を地域の皆さんとともに広げたいと考え、次項から各取り組みを紹介します。

地域を愛する心を育てる取り組み

山北の小・中学校が行っている「ふるさとの魅力」を学び体験する取り組みを紹介します。



山北地区の各学童保育所の子どもたちは、紙芝居を使って、地元の方で語る「山北の昔語り」をさまざまなイベントで披露しています。

山北の昔語り 山北学童保育所

お母さんや友だちに「山北弁」で話すのを聞いてもらいたくて「山北の昔語り」を練習することにしました。

スローフードフェスタでは、大毎集落の昔話「タイショウダの池」を発表しました。来てくれた皆さんが真剣に聞いてくれたこと、私が一番好きな「どごさいったがし」という言葉に、ニコニコ笑ってくれたことがとてもうれしかったです。

♥山北のここが好き♥

地域の人があたたかい！

さんぽく北小学校 3年生 田宮 凜さん



食博士になろう さんぽく北小学校 5年生

～さんぽく北小学校では、生活科・総合的な学習の時間に「山北博士になろう」をテーマに山北の生業について学んでいます～



ケンサ焼きは、クルミを山から拾ってみそと混ぜたり、炭で火をおこしておにぎりを焼く大変な料理だと思いました。でも、地域の人には当たり前のように作っているのがすごいなと思いました。

ケンサ焼きはおいしいので山北に残っていてほしい食べ物です。

大滝 快くん ♥山北のここが好き♥
赤カブ漬けなどおいしいものがたくさん！



「食博士になろう」をテーマにして5年生は、山熊田集落で「赤カブ漬け」を体験し、小俣集落では「ケンサ焼き弁当」を作りしました。



半年間、ロバの「ポコ」の飼育を通して、ポコと出羽街道などのまち歩きや福祉施設へ訪問したほか、地域の人を「ポコランド」にも招待しました。

すすめ！ニコニコキャラバン隊 さんぽく南小学校 2年生

～さんぽく南小学校では、生活科・総合的な学習の時間に「地域の人とのふれいあい」を中心に山北の食や自然について学んでいます～

ポコと「里山たんけん」をして、高い山道など知らないところがたくさんありました。私は出会った人に元気にあいさつをして、がんばってたくさん質問をしました。地域の人にもニコニコあいさつして、やさしく色々なことを教えてくれたことがとてもうれしかったです。



本間 ゆかりさん

♥山北のここが好き♥
山がある自然！

山北地区のまちづくりについて考える会 山北中学校 3年生



総合学習の時間に、職場体験や地域を学ぶ取り組みを行った3年間の活動を通して、「山北地区を元気にするためには何が必要か。そして、自分たちに何ができるか」などを山北地区まちづくり協議会の会員と真剣に話し合いました。

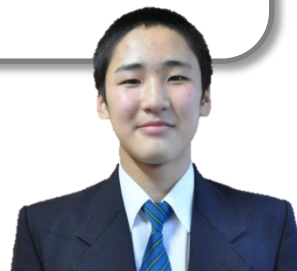
地域の人と学校で話すのが初めてとても緊張しました。山北のまちづくりについて、大人の考えを聞くことや、自分たちの意見を言える場所がないため、このような機会がたくさんあると良いと思います。

私たちの意見でこれから山北がどのように変わって行くのかを見てみたいです。

3年A組
吉光 由優雅さん
♥山北のここが好き♥
自然と気軽に触れ合える！

「山北にもっとお店が欲しい」と発言したのは、交通手段がない多くの高齢者が困っていると思ったからです。僕たちも山北の少子高齢化をとて心配しています。山北が元気になるために「あいさつを元気にする！」僕たちができることから精一杯に取り組みしたいと思います。

3年B組
富樫 大我くん
♥山北のここが好き♥
自然の中で遊べる！



【山北の暮らし⑧「清水」】

私たちが生きるうえで欠かすことのできない「水」。山北地区には豊かな自然が育む山々から湧き出す「清水」がいくつもあります。

そのなかでも国や新潟県が「名水」として選定している「清水」をご紹介します。

環境省「平成の名水百選」 「新潟県の輝く名水」



■吉祥清水（大毎）

古くから大毎集落の人々の生活用水とされ、年間2万人の水汲み客が訪れます。地酒「日本国」の仕込み水としても使用され、夏は200m大そうめん流しなどの「名水まつり」も開催し、多くの人に愛されています。

「新潟県の名水」



■鱒山清水（大毎）

大毎と朝日地区高根を結ぶ「広域農道山北朝日線」の中間に湧き出る清水。真冬には集落から6km離れた深雪から湧き出る清水を求めてスノーモービルで雪原を駆けるツアーも開催されます。



■四十手清水（中継）

中継ふるさとづくり推進委員会が水飲み場として整備。集落の皆さんで定期的に清掃・管理し、農作業の合間に愛飲しています。



■ラジウム清水（小俣）

標高555mの「日本国」の麓から湧き出る清水。山肌の岩盤にラジウムが含まれるとされていることからこの名がついたようです。年間1万人の登山者の喉をうるおす貴重な水源です。

《今後の行事予定》

- 2月 6日 平成27年度集落の元気づくり支援事業応募締め切り
- 2月 9日 スノーマンがやってきた！
- 3月 15日 地域づくり楽習会